

## わいわいストリート大盛況

子どもの日の5月5日、しあわせの村・芝生広場でわいわいストリート(〈わ〉と振興協会共催)が開催され、約2000人を超す家族連れで大賑わい。雲一つない晴天で、

気持ちの良い1日を過ごしました。

芝生広場にはむかしあそび研究会、木工クラブ、ケナ



フの会、うらしまたろうと〈わ〉本部からスタッフ計約150人が出動。竹馬、コマ回し、紙トンボ、はねかえる、ぶんぶんごま、けん玉、木工工作、ケナフ紙すき、バルーンアート、皿回し、輪投げ、妖怪ほいほいなどのブースがズラリとならびました。

木工クラブは汽車、自動車、カバ、トラ、のぼり人形作りを用意。車輪は難しいので、クラブ員が事前に作っておきました。板に形を描いておき、糸鋸でくり抜きます。部品をつなぎ合わせ、釘で止めれば出来上がり。親の方が夢中になるケースも。ケナフの会は押し花ハガキを作ります。金網を張った枠で紙の材料をすくいあげ、新聞紙で水分を取ります。その上に花びらをのせ、枠を外し、アイロンで乾かします。きれいに仕上がってにっこり。

4、5歳の女の子が竹馬に乗ります。最初は歯が立ちません。父親に支えてもらい、4、5歩を歩いてにっこり。大勢の子どもは皿回しに挑戦。何度もしくじって、うまく回るようになると得意顔でした。

事業担当者は「振興協会と初めての共催。〈わ〉が将来、すべての業務を担うことを視野に、広報のチラシを作成するなど苦労しました。この経験を今後に生かしたい」と話していました。

(取材・写真 広報 永野知己)

## 人形劇ほたる座にかわいい拍手

水の科学館 GWは〈わ〉で遊ぼう

「あ、おもしろかった」――。幕が下りると、子どもたち30人が熱い拍手をおくる。5月4日、〈わ〉のボランティアグループ「人形劇ほたる座」=裏地彦允(食5)代表=の公演が水の科学館でありました。演目は日本民話を題材にした「おむすびころりん」。善良なおじいさんは、おむすびを巣穴に落としてネズミから宝物をもらい、欲張りなおじいさんはひど

い目にあうという筋。おむすびがコロコロころがると「あゝ」とため息。舞台と観客の心が通います。

メンバー7人は、黒い衣装に黒頭巾をかぶり、カセットテープに入れた台詞やナレーションをバックに人形を操ります。欲張りさんは、いかにもそれらしいご面相。終わる間際、テープの音が出なくなるというハプニング。近藤哲子さん(音15)が機転を利かせて台本を生声でカバーして事なきをえました。

この日の公演は朝10時10分から14時30分まで4回。公演を終えたメンバーは「年やな。立ったり、座ったりが辛い」とぼやきながらも、無事に終え、満



足そう。〈わ〉の水の科学館でのイベントは5月2日むかしあそび研究会、3日うらしまたろう、5日野草クラブ、6日kSCマジッククラブが協力しました。

(取材・写真 広報 永野知己)

## ストレス吹き飛ばす森林浴ウォーク

春の森林浴ウォークは晴れ上がった6月1日に開催、26人が参加しました。北鈴蘭台駅に午前9時45分に集合し、森林植物園まで無料バスで移動。正門前から



歩き始め、修法が原、大龍寺、市章山、碓山を経て諏訪山公園、地下鉄県庁前駅まで(約10キロ)。緑たっぷりの森の空気を吸い、急な坂道を登り、下りし、日ごろのストレスは吹き飛びます。再度公園で昼食。市章山、碓山山頂からは青く輝く神戸

の海、高層ビルがめっきり増えた神戸の街を堪能、楽しい半日になりました。ある参加者は「万歩計で14000歩でちょうど、手ごろなコース。案内役の森の仲間さん、ありがとうございました」と話していました。(取材・永野知己 写真・四方久幸)